

真っ赤な花桃

燃えるような真っ赤なカーテンが道の両サイドを飾っていた。それは満開の花桃の木々であった。桃の木には食用の「実モモ」と、花を楽しむ園芸用品種の「花桃」の2種類がある。所有者が花桃を見ながら嬉しそうに語ってくれた。「これは実もなるが小さくて食べることはできず観賞用の桃なのです」と。実モモの花は桜や梅に似ているが、花桃の花はより大きく八重桜のように華やかで桃色・白・赤などがある。また立性と垂れ性に分けられている。

「♪～あかりをつけましょ ぼんぼりに
お花をあげましょ 桃の花 五人ばやしの
笛太鼓 今日のはたのしい ひな祭り～♪」童謡「ひな祭りの歌」である。女の子の健やかな成長を祈る日本の伝統行事の一つで、桃の花が咲く季節にあたるため「桃の節句」とも呼ばれている。



原産地は中国で花を観賞するために改良されている。日本でも江戸時代より改良が進み数多くの品種が生まれている。花言葉には「人柄の良さ、恋のとりこ、あなたに夢中」とある。大きく真っ赤に燃えるような花を見たとき、情熱的な恋のとりこ、貴方に夢中にピッタリのイメージが湧いてくる。

庭のない家が多い日本の住宅事情ではあるが、「知桃」の花桃の品種は鉢植えでも十分に美しさを堪能することが可能とのこと。一度栽培してみたいものだ。しかし恋のとりこ、あなたに夢中になるようなハプニングになるかも知れない。良いのかな？

撮影 2012 年春

